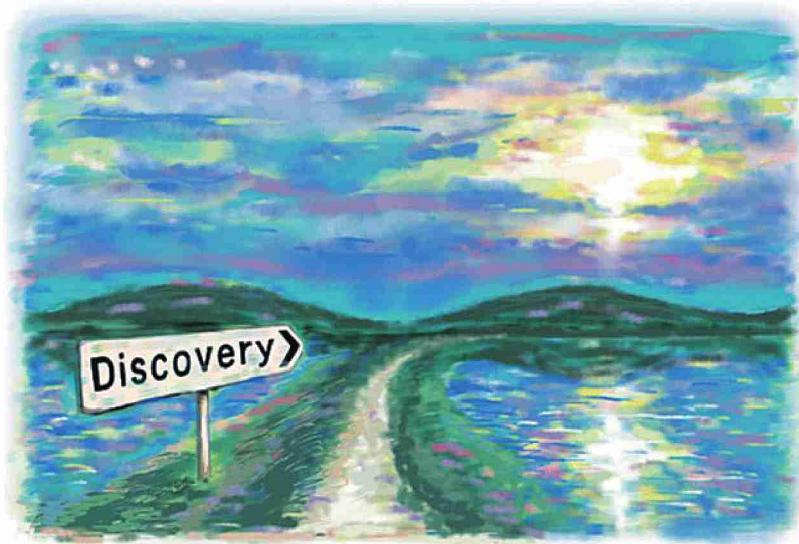


文部科学省「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」採択事業

## 障害者の生涯学習活動への地域包括的支援

— 令和元年度 —  
**事 業 報 告 書**



長崎大学医学部保健学科

## ごあいさつ



長崎大学医学部保健学科長  
(事業推進責任者)  
**澤井 照光**

本事業は、文部科学省が取り組む「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」の中で、「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」として平成30年6月25日にスタートしたものです。事業には当初、全国で5件の地方公共団体と9件の民間団体、及び筑波技術大学・日本社会事業大学・東京学芸大学・長崎大学の4大学の計18団体が採択されていましたが、令和元年度には3件が中止されるとともに新たに6件が加わり、地方公共団体4件、民間団体10件、保護者の会と企業が1件ずつ、及び筑波技術大学・日本社会事業大学・神戸大学・愛媛大学・長崎大学の5大学となって、合計21団体が事業に取り組んでいるところです。

本事業の趣旨は、平成26年に批准された「障害者の権利に関する条約(障害者権利条約)」や、平成28年に施行された「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)」等を踏まえ、学校卒業後の障害者が社会で自立して生きるために必要となる力を維持・開発・伸長し、共生社会の実現に向けた取り組みを推進するために、学校から社会への移行期、生涯の各ライフステージにおける効果的な学習について具体的な学習プログラム・実施体制について実践研究を行い、その成果を普及することで社会全体の理解を向上するとともに担い手の育成や実践の拡大等を目指していくというものです。

長崎県における現状(特別な配慮が必要な生徒：小中学校で9.8%、高等学校で3.8%、発達障害の可能性がある生徒：小中学校で7.6%、高等学校で2.3%)を踏まえ、本学では対象を発達・精神障害者に焦点を絞り、「学校から社会への移行期における学習プログラム」と「生涯の各ライフステージにおける学習プログラム」の二段構えでプログラム開発・実践に取り組んでいます。前者について、平成30年度の参加者はべ127名(受講者52名)、令和元年度はのべ128名(受講者44名)、後者への参加者は同様に平成30年度104名(受講者49名)、令和元年度146名(受講者52名)となっています。両プログラムにおいて共通の目的であった、互いの思い・悩みを共有し、新しいスキルを修得し、自己理解を深め、より自分自身に合った「処世術」を身に付け、仲間と新たな体験をする、という点では十分に満足できる成果が挙げられており、ピアソーターを新たに育成していくという点からも大いに手ごたえを感じているところです。学習プログラムの実施計画、具体的内容、スタッフの活用法、進捗状況、評価方法等について審議する連携協議会の構成員には障害者当事者が含まれており、当事者主体の連携協議会を繰り返すことで、さらに効果的な実証研究の遂行・連携体制の強化が推進されるものと期待しております。

本事業は、長崎大学保健学実践教育研究センターが長崎大学子どもの心の医療・教育センター及び長崎大学ICT基盤センターとの協働により推進しておりますが、当事者とそのご家族、教育・医療・療育・保健・福祉・労働等に係る数多くの関係機関の方々との連携が今後も不可欠です。不幸な事件すら勃発する現代社会ではありますが、障害者の皆様が夢や希望をもって生活できるように、そしてそのために必要となる多種多様な「学び」の機会を充実させていくことができますように、本事業が益々継続・発展していくことを祈念しております。皆様方のご理解とご支援を、どうか宜しくお願い申し上げます。



# 目 次

## ごあいさつ

長崎大学医学部保健学科長 澤井 照光(事業推進責任者)

## 本事業の実施概要

事業概要	7
組織	9

## 活動報告

障害者の生涯学習プログラム	13
1. 学校から社会への移行期における学習プログラム	
(1)受講者募集期間	
(2)募集人数、応募者数、受講者数	
(3)プログラム開講期間	
(4)プログラム内容	
(5)プログラム修了時の受講生の感想	
(6)活動風景写真	
2. 生涯の各ライフステージにおける学習プログラム	
(1)受講者募集期間	
(2)募集人数、応募者数、受講者数	
(3)プログラム開講期間	
(4)プログラム内容	
(5)プログラム修了時の受講生の感想	
(6)活動風景写真	
遠隔教育教材開発	19
「リカバリー入門」の開発	
フォーラム	20
1. 時津町との共同開催「こころの健康講座－発達障害を理解しよう－」	
2. ピアサポートみなと(大村市)との共同開催	
「ひきこもりからのリカバリーフォーラム」	
3. サポートセンターきらり(五島市)との共同開催	
「ピアサポートとリカバリー」	
4. 障害者の生涯学習活動成果報告フォーラム(予定)	

広報及び事業経過報告活動 ..... 40

1. Web広報

2. 事業経過報告

(1)第53回日本作業療法学会

(2)第27回日本精神障害者リハビリテーション学会

(3)第65回九州精神医療学会

(4)第40回長崎県精神科リハビリテーション研究会(予定)

(5)第2回九州作業療法学会(予定)

### 会議報告

1. 連携協議会 ..... 49

(1)第1回連携協議会

(2)第2回連携協議会

(3)第3回連携協議会

(4)第4回連携協議会

### 総 括

長崎大学医学部保健学科 田中 悟郎(事業プロジェクトリーダー) ..... 53

### 資 料

1. 令和元年度事業カレンダー ..... 57

2. 学校から社会への移行期における学習プログラム

令和元年度募集要項 ..... 59

3. 生涯の各ライフステージにおける学習プログラム

令和元年度募集要項 ..... 67

4. 学校から社会への移行期における学習プログラム資料 ..... 75

5. 生涯の各ライフステージにおける学習プログラム資料 ..... 97

## 本事業の実施概要



# 事業概要

【実施主体】 長崎大学医学部保健学科

【実施期間】 平成30年～令和2年 3カ年間(予定)

## 【事業の概要と目的】

本事業は、文部科学省の「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」における「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」として実施するものです。長崎大学の事業名は「障害者の生涯学習活動への地域包括的支援」です。学校卒業後の障害者が社会で自立して生きるために必要となる力を生涯にわたり維持・開発・伸長するため、(ア)学校から社会への移行期、(イ)生涯の各ライフステージ、における効果的な学習に係る具体的な学習プログラムや実施体制、地域の生涯学習、教育、スポーツ、文化、福祉、労働等の関係機関・団体等との連携の在り方に関する実証的な研究を行い、成果を全国に普及します。

## 【令和元年度のプログラム内容】

### 1. 学校から社会への移行期における学習プログラム

目的：「仲間と出会い、自分の特性を知る」を目標に、先輩当事者・ピアソポーターによる講義や大学生との協働学習体験などを含んだ学習プログラムを提供いたします。

対象：発達障害または精神障害がある人

内容：先輩当事者の体験談、疾患・障害の心理教育、社会生活技能訓練(Social Skills Training:SST)などです。外部講師(当事者含む)を招聘したり、大学生及び大学院生のボランティアとの交流もあります。なお、プログラムは、受講生の皆様のご希望を伺いながら、より具体的な内容を決定していく予定です。月1回、13:30-16:30の3時間、日曜日に開講します。3時間を3コマ(活動45分、休憩15分)と想定し、計5回(15コマ)、長崎大学医学部保健学科にて実施する予定です。

【初回】8/18(日)：オリエンテーション(自己紹介)、先輩当事者の体験談1&2

【2回】9/22(日)：疾患・障害の心理教育1&2、コミュニケーションについて

【3回】10/20(日)：会話を始める、会話を続ける、会話を終える

【4回】11/10(日)：感情(不安、怒り)のコントロール1&2、ストレス対処法

【5回】12/15(日)：自分の特徴を伝える1&2、修了式

### 2. 生涯の各ライフステージにおける学習プログラム

目的：「夢や希望を持って生活できる」を目標に、英国のRecovery Collegeのプログラムを参考に、当事者と専門職がCo-productionの理念のもと、協働しながら運営・実施します。

対象：発達障害または精神障害がある人

内容：先輩当事者の体験談、元気回復行動プラン(Wellness Recovery Action Plan:WRAP)、当事者研究、恋愛／結婚などです。外部講師(当事者含む)を招聘したり、大学生・大学院生のボランティアとの交流もあります。なお、プログラムは、受講生の皆様のご希望を伺いながら、より具体的な内容を決定していく予定です。月1回、13:30-16:30の3時間、日曜日に開講します。3時間を3コマ(活動45分、休憩15分)と想定し、計5回(15コマ)、長崎大学医学部保健学科にて実施する予定です。

【初回】8/25(日)：オリエンテーション(自己紹介)、先輩当事者の体験談1&2

【2回】9/29(日)：疾患・障害の心理教育1&2、ストレス対処法

【3回】10/27(日)：WRAP体験1～3

【4回】11/17(日)：恋愛・結婚1&2、当事者研究1

【5回】12/22(日)：当事者研究2&3、修了式

## 【令和元年度の事業概要図】



## 【3ヵ年間スケジュール(予定)】

[平成30年度]

- ・連携協議会の設置及び事業関連職員の配置
- ・本事業の公表及び推進のためのホームページの立ち上げ
- ・連携協議会の開催(年4回)
- ・キックオフシンポジウムの開催
- ・2つの学習プログラムの実施
- ・障害者の生涯学習推進フォーラムの開催
- ・事業関係者による国内視察
- ・成果報告フォーラムの開催

## [令和元年度及び令和2年度(予定)]

- ・連携協議会の設置及び事業関連職員の配置
- ・連携協議会の開催
- ・障害者の生涯学習推進フォーラムの開催
- ・2つの学習プログラムの実施
- ・遠隔教育教材の開発
- ・事業関係者による国内視察
- ・成果報告フォーラムの開催

# 組 織

## 事業推進担当者：

澤井 照光(長崎大学医学部保健学科長) \*事業推進責任者  
田中 悟郎(長崎大学医学部保健学科教授) \*プロジェクトリーダー  
岩永竜一郎(長崎大学医学部保健学科教授)  
徳永 瑛子(長崎大学医学部保健学科助教)  
吉田 ゆり(長崎大学教育学部教授、長崎大学ダイバーシティ推進センター長)  
今村 明(長崎大学病院地域連携児童思春期精神医学診療講座教授)  
調 漢(長崎大学学長特別補佐、長崎大学子どもの心の医療・教育センター長)

## コーディネーター：

河野 知房(NPO法人のぞみ共同作業所長、作業療法士)

## 技術補佐員(大学院生)：

石橋 俊作(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻、作業療法士)  
鎌下 莉緒(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻、作業療法士)  
鴨川 拳(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻、作業療法士)  
川中 瑞帆(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻、作業療法士)

## 事務補佐員(学部生)：

加世田 恵(長崎大学医学部保健学科3年)

## ボランティア学生：

和田 友希、米田 直人、清水 夢乃、平山 友菜(長崎大学医学部保健学科4&3年)

## 【参考】長崎大学子どもの心の医療・教育センター実務者会議構成員

調 漢(長崎大学子どもの心の医療・教育センター長)  
岩永竜一郎(長崎大学子どもの心の医療・教育センター副センター長)  
吉田 ゆり(長崎大学教育学部教授、長崎大学子どもの心の医療・教育センター兼務教員)  
石川 衣紀(長崎大学教育学部准教授、長崎大学子どもの心の医療・教育センター兼務教員)  
今村 明(長崎大学病院地域連携児童思春期精神医学診療講座教授、長崎大学子どもの心の医療・教育センター兼務教員)  
田中 悟郎(長崎大学医学部保健学科教授、長崎大学子どもの心の医療・教育センター兼務教員)  
徳永 �瑛子(長崎大学医学部保健学科助教、長崎大学子どもの心の医療・教育センター兼務教員)  
深堀 久幸(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科総務課長)  
佐藤 良次(長崎大学医学部保健学科専門職員)  
濱中 真実(長崎大学子どもの心の医療・教育センター技術補佐員)  
久保 結花(長崎大学子どもの心の医療・教育センター技術補佐員)  
松尾 萌美(長崎大学子どもの心の医療・教育センター事務補佐員)





## 活 動 報 告





# 障害者の生涯学習プログラム

## 1. 学校から社会への移行期における学習プログラム

### (1)受講者募集期間

令和元年7月8日(月)から令和元年8月3日(金)まで(\*その後、8月9日まで延長)

### (2)募集人数、応募者数、受講者数

募集人数(障害者枠)は15名、応募者数及び受講者数は9名(男性9名、女性0名;平均年齢22.4歳)

募集人数(支援者枠)は5名、応募者数及び受講者数1名(男性1名)

### (3)プログラム開講期間

令和元年8月18日～令和元年12月15日

### (4)プログラム内容

プログラムを実施する際は、参加者同士の協働、スタッフや関係者との対話、先輩当事者との交流などを通じ、自己の考えをしなやかに広げ深める「主体的・対話的な学び」を実現できるように努めた。

【初回】8/18(日)：オリエンテーション(自己紹介)、ピアサポーターの体験談

参加者：受講者9、支援者1、ピアサポーター6、学生・院生6、コーディネーター1、大学教員2、計25名

【2回】10/6(日)：疾患・障害の心理教育

\*台風のため当初予定していた9/22は中止し、10/6に実施

参加者：受講者9、支援者1、ピアサポーター6、学生・院生7、コーディネーター1、大学教員2、計26名

【3回】10/20(日)：コミュニケーション

参加者：受講者9、支援者1、ピアサポーター5、学生・院生7、コーディネーター1、大学教員2、計25名

【4回】11/10(日)：ストレス対処法

参加者：受講者9、支援者1、ピアサポーター4、学生・院生9、コーディネーター1、大学教員1、計25名

【5回】12/15(日)：自分の特徴を伝える、講座の振り返り、修了式

参加者：受講者8、支援者1、ピアサポーター6、学生・院生9、コーディネーター1、大学教員2、計27名

### (5)プログラム修了時の受講生の感想(①本講座のプログラムの満足度：「満足」、「やや満足」、「どちらともいえない」、「やや不満」、「不満」から一つ選択。②感想)

A氏：「①「満足」。②急な変更に対応できることが自分の強み。普段の生活で忘れ物が多いことで困っているが、付箋などに書いて貼っておくことで対処している。本講座では、自分の困っていることや悩んでいることの解決法や対処法などが知れて良かった。」

B氏：「①「満足」。②与えられた作業は最後までやりとげる、うそをつかない、無理をしそぎない、まじめなどが自分の強み。いくつかやることが同時に出了時になかなか決められないことや急な予定変更への対応で困っているが、メモ帳に色ペンで線を引く、携帯電話の利用、自分で目安を決めて計画を立てるなどして対処している。周囲にお願いしたいことは、自分が難しい時は「こうしたらしいよ」とか一言声をかけてほしい、わからない時はもう一度言ってほしい。自分の特徴をしっかり相手に伝えることでいろいろな人の助言をもらって共有できた。人にはその人の悩みがあって、十人十色だった。意見を共有してみるといろいろな視点が見えた。意見の発信で盛り上がったこともあった。ピアサポーターや学生のみ

なさんといろいろ楽しく活動できて本当に楽しいと感じた。5回ともいろいろな人と関わることができて、楽しく感じ、また機会があれば話をしてみたいと思った。」

C氏：「①「満足」。②手先が器用、挨拶の声が大きい、思いやりがある、家の手伝い、読書、運動などが自分の強み。あわてると早口になる【深呼吸する】、聞きすぎてしまう【相手が困らないように回数を制限する】、疲れていると時間の意識がなくなる【早く寝る】などへの対応で困っているが、それぞれ【】内の方法で対処している。他にも同じ思いをしている人がいることやピアソーターの人も自分と同じ思いを持っていることを学んだ。次の講座にも参加したい。月1回の計5回なのでとてもいい勉強になった。自分の事について知ることができた。また一人友達ができた。(講座の)始まる前の挨拶やなにげない話がとても楽しかった。過去を振り返り前に進むことができた。さらに大切な人に似た人とも会えたのがとてもよかったです。運命は何度だって変えられるし、僕は生きている事への幸があること、(ある曲の歌詞に)「そうきっと明日さえも見えないジグザグな足跡でも僕らは描き続けるんだ。自分だけの道を」で明日は見えないでも自分の思いのままに生きることが大事だと思いました。もしできるならピアソーターとして参加したいと思う。」

D氏：「①「満足」。②明るい、相手の話は最後まで聞く、笑顔、謝罪ができる、アドバイスが上手、たまにこれしましょうかとか言う、整理がすぐにできる、部屋がきれい、コミュニケーションや買い物が上手などが強み。どこに行き遊ぶか外食などの予定の立て方、気持ちの切り替え、深く考えることなどへの対処で困っている。本講座ではたくさんの方々の意見を聞いて特性はいろいろあると感じた。自分の聞きたいことが聞けて、力になった。次回の講座も今まで大丈夫。」

E氏：「①「やや満足」。②パソコン、スマートフォン、ボーリングが強み。苦手な食べ物があること、イライラする時、てんかんが起きた時、悪夢を見た時などが困っている。読み書きができない時はパソコンなどを使うことで対処している。周囲の人には、自分だけではなく、一緒に整理整頓をしてほしい。ピアソーターの体験談(リカバリーストーリー)、発達障害の知識、ゴーサインやノーゴーサインなどのコミュニケーションのコツ、ストレス対処法などが学べてよかったです。」

F氏：「①「やや満足」。②謙虚になれる所が自分の強み。中学や高校のクラスメイトの名前をあまり覚えていないくて困っている。自分の特性には感情的にならないように対処できるが、周囲の人たちにはせかさないようにしてもらいたい。本講座では、他の人のいろいろな考えを聞けて、いろいろな考えを知ることができた。一人で悩むより他人に話すことで不安を多少はまぎらわせた。」

G氏：「①「やや満足」。②計算が早い、気を使える、説明書が読める、気配を感じることができるなどが強み。どこに何を置いたか、今何をやっているのかがわからなくなる、何を言えばいいのかがわからなくなる、予定通りにいかないと困る、後ろが気になるなどで困っている。事前に決めておく、時間をかける、できるだけ壁を背にするなどで対処しているが、周囲の人には、後ろに立たないでほしい。自分の苦手な事や困っている事を考えることで自分の知らなかった自分を知ることができた。そして自分以外の考え方を聞くことで思いもつかない対処法を知ることができた。グループで話しあうこと、毎回メンバーの組合せが違うこと、いろんな話を聞くことができたこと、発達障害について知ることができたことなどが良かった。お昼を食べながら講座をするとおもしろそう。」

H氏：「①「やや満足」。②虫を触れること、酒を飲まなくても生きられることができが強み。感覚の過敏性、見落としや忘れ物、過度に集中して疲れる、整理整頓や物事の優先順位つけなどで困っている。準備する物をまとめて置いておくなど周囲の人に頼むことで対処している。本講座では、コミュニケーションの取り方を学んだ。話しやすかった、意見を出しやすくて良かった。」

(6)活動風景写真



## 2. 生涯の各ライフステージにおける学習プログラム

### (1)受講者募集期間

令和元年7月8日(月)から令和元年8月3日(金)まで(\*その後、8月9日まで延長)

### (2)募集人数、応募者数、受講者数

募集人数(障害者枠)は15名、応募者数15名、受講者数14名(男性9名、女性5名;平均年齢45.1歳)

募集人数(支援者枠)は5名、応募者数及び受講者数4名(男性1名、女性3名;平均年齢45.5歳)

### (3)プログラム開講期間

令和元年8月25日～令和元年12月22日

### (4)プログラム内容

プログラムを実施する際は、参加者同士の協働、スタッフや関係者との対話、先輩当事者との交流などを通じ、自己の考えをしなやかに広げ深める「主体的・対話的な学び」を実現できるように努めた。

【初回】8/25(日)：オリエンテーション(自己紹介)、ピアサポートーの体験談

参加者：受講者13、支援者4、ピアサポートー6、学生・院生7、コーディネーター1、

大学教員1、計32名

【2回】9/29(日)：疾患・障害の心理教育

参加者：受講者10、支援者3、ピアサポートー3、学生・院生8、コーディネーター1、

大学教員1、計26名

【3回】10/27(日)：WRAP

参加者：受講者10、支援者4、その他2、ピアサポートー6、学生・院生6、

コーディネーター1、大学教員1、計30名

【4回】11/17(日)：恋愛・結婚、当事者研究

参加者：受講者10、支援者4、ピアサポートー6、学生・院生8、コーディネーター1、

大学教員1、計30名

【5回】12/22(日)：当事者研究、講座の振り返り、修了式

参加者：受講者9、支援者4、ピアサポートー6、学生・院生7、コーディネーター1、

大学教員1、計28名

### (5)プログラム修了時の受講生の感想(①本講座のプログラムの満足度：「満足」、「やや満足」、「どちらともいえない」、「やや不満」、「不満」から一つ選択。 ②感想)

A氏：「①「満足」。②主体的に学ぶことの大切さ、他人に言われたからではなく自分の意思で学べば自分の身になる。何歳になっても、障害があろうとなかろうと、学び続けることは、人にとって大切だと思った。和やかに学べる雰囲気がありとても良かった。初回では学生さんが多くて少々気になったが、回を重ねるごとに気にならなくなった。“大学”で開催される講座なので興味はあって躊躇する方もいると思う。“大学”的持つ心理的ハードルが下がれば参加者も多様化すると感じる。長崎においてリカバリーカレッジ事業を始めるきっかけとしての講座だと思う。生涯学習講座の受講生の中から将来リカバリーカレッジ長崎の運営メンバーが多く生まれることを望む。」

B氏：「①「満足」。②WRAPやグループワーク、ストレス対処法などを学んだ。いろいろな価値観をお持ちの方に出会うことができて良かった。私より人生経験が豊富な方がいらっしゃったので、年齢に関係なくそのような人たちと接する機会が多くたらもっと講座はよくなると思う。若い人が意外と参加者の中に多くいた。といっても私が年を取っているせいかもしれないが、若い人から元気をいっぱいもらった。ありがとうございました。個性がある人がいっぱいいらっしゃいましたので、参考になることがいっぱいあった。本講座に参加して本当に良かった。皆さんに感謝。」

C氏：「①「満足」。②いろんな人々に会えて、いろんな意見を聞くことができたことと自分のことを吐露できたことが良かった。また来年も講座を受けたい。講座を受講することに意義がある。」

D氏：「①「満足」。②自分の考えを書いて、貼っていくことで考え方をまとめられる、という作業をすることを学んだ。自分以外の人の考えていることも知ることができた。人それぞれいろいろな考え方、個性があると思った。深く考えられることや前向きなことなどを学んだ。どの講座も楽しくてわかりやすかった。みなさんと一緒にいろいろと体験できてよかったです。いろいろな人の体験を聞いて共感したりしたこともあった。それぞれの悩み、苦しみなどいつか解決できたらいいなと思った。」

E氏：「①「満足」。②今回は特にWRAPについて知りたかったので、さわり程度ではあったかもしれません、知れたこと、またファシリテーターである人から内容などを教えてもらうことができた。WRAPの集中講座に参加したいと思った。当事者の方達と知り合え、普段思っていることなど話ができたこと、学生の方々と若者らしい新しい考え方を知れたこと、またそのことで若い療法士の卵が育つ過程が見れて楽しみができたことが良かった。私的には、もう少し深い内容で時間を取ってもらいたいと思ったのですが、そもそもいかないことは重々承知しているつもり。機会があれば、ピアサポート専門員講座的な講座や研修を受けたく、ディスカッションできればいいなと思った。今回の講座では楽しく過ごせた。初めて出会う人も顔見知りの人とも話しができてよかったです。ピアサポートする上で役に立つようなヒントも得てきました。またWRAPについて以前よりも興味がわいた所でもあった。学生さん達には患者さんとうまく信頼関係が築ける職員になってほしい。」

F氏：「①「やや満足」。②他人の意見や世界観を知り良かった。リカバリーストーリーがためになった。その人なりの簡潔な総括を聞いて良かった。普段過ごしている施設では日常会話を主にしているので、リカバリーストーリーのように踏み込んだ人生内容にふれることはあまりないので新鮮だった。ひきこもり生活の長かった僕にとっては、日常会話することも大変になるが、人生に踏み込んで話すことも時には必要なのかなと思った。」

G氏：「①「やや満足」。②精神疾患はリカバリーできるということとリカバリーできている人が多くいるということを学べた。体験談を聞くことができたこと、同じ背景をもつ仲間に会えたこと、それで希望が持てたことが良かった。心理教育の部分をもっと深く知りたかった。毎年、季節の変わり目には体調を崩していたが、今年は体調を崩すことなく、本講座に参加できてよかったです。」

H氏：「①「やや満足」。②いろんな人と話すことで自分の生活の中で知らなかったことを知ることができた。ただ2回目の講座を諸事情で欠席してしまったことが残念。来年、席があれば是非参加してみたいと思う。WRAPで自分の中でのモヤモヤが少し晴れた気がした。4回目の講座では、ほぼ女子会状態になって思いっきり話すことができた。参加できなかった心理教育というものがどういうものか学びたかった。WRAPをもっと深く学びたいと思った。ピアサポートや受講者の中にユニークで面白い人がいてよかったです。」

I氏：「①「やや満足(1回欠席したため)」。②今回初めてWRAPを学んだ。意見交換できる環境も大切だと思った。3つのグループに分かれて意見を出し合えたこと、初回時ピアサポートの体験談を聞けたことが良かった。今回初めての参加だったが、どの回も興味が持てて参加でき、外に目を向けるきっかけになった。大学キャンパスまで來るのが少し大変だったが、来年度も開催が決まりましたら是非参加したい。」

(6)活動風景写真



# 遠隔教育教材開発

## 1. 目的

外出困難な人(ひきこもりの状態にある人)または離島在住の人へのリカバリーを目標にした遠隔教育教材の開発

## 2. 教材の内容

テーマ：「リカバリー入門」(約70分)

(1)リカバリー入門概論(10分) 担当：田中悟郎

(2)リカバリー入門各論

私のリカバリーストーリー(10分) 担当：上田 忠(みなと共同代表)

私のリカバリーストーリー(10分) 担当：古田勇貴(みなと共同代表)

私のリカバリーストーリー(10分) 担当：片岡洋子(みなと副代表)

私のリカバリーストーリー(10分) 担当：富永遼子(みなと副代表)

私のリカバリーストーリー(10分) 担当：片岡史和(みなと副代表)

私のリカバリーストーリー(10分) 担当：杉本哲文(みなとメンバー)

全員からのメッセージ(5分)

(3)次年度の予定

「私の楽しみ」、「元気の源」、その他などをテーマに開発する予定

## 3. 教材の配信方法(2020年度に配信予定)

(1)DVDの貸し出し(方法の詳細は検討中)

視聴希望者公募→本人・家族からの申込み(理由書等の提出)→期限付きでDVD貸し出し→DVD回収(本人・家族から感想を頂く)

(2)長崎大学医学部保健学科ホームページ上にビデオ教材アップ(システム構築検討中)

視聴希望者公募→本人・家族からの申込み(理由書等の提出)→期限付きで視聴に必要なパスワード等の情報を提供→期限終了後、本人・家族から感想を頂く→パスワード変更

## 4. 参考資料

(1)JPOP®(Japan Public Outreach Program)-VOICE

<http://jpop-voice.jp/>

(2)Recovery College Online

<https://lms.recoverycollegeonline.co.uk/>

## フォーラム

### 1.「こころの健康講座－発達障害を理解しよう－」(時津町との共同開催)

日 時：令和元年8月28日(水) 14:00～16:00

場 所：時津公民館

テー マ：発達障害を理解しよう～当事者の視点で障害を語りなおし、多様な個性が輝く社会づくりを目指す～  
開催案内：長崎県内の就労系事業所、地域活動支援センター等にちらしを郵送

参加者数：108名

内 容：

開会挨拶	時津町福祉課障害福祉係 柴原 彩子
挨拶 文部科学省 総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課	障害者学習支援推進室 室長補佐 星川 正樹氏
事業概要説明 長崎大学医学部保健学科 田中 悟郎	シンポジウム「発達障害を理解しよう～当事者の視点で障害を語りなおし、 多様な個性が輝く社会づくりを目指す～」
就労移行支援事業所太陽工房生活支援員ピアソーター 富永 遼子氏 ピアサポートみなと共同代表 ピアソーター 上田 忠氏	のぞみ共同作業所 ピアソーター 茂山 季子氏
閉会挨拶 長崎大学医学部保健学科 田中 悟郎	





## 「こころの健康講座」のご案内

今年のこころの健康講座は、「発達障害を理解しよう」をテーマに、ピアソーターとしてご活躍されている方々から、「発達障害」について大いに語っていただく、シンポジウムを開催いたします。

発達障害について理解を深め、様々な苦労を抱えながらも、仲間とともに、学びを通じて夢や希望を持ち、自分らしく生活できるためにはどのようにしたらいいか、皆様で考える機会にしたいと思います。

家族の方、地域の方、支援者の方、どなたでも参加できます。多数の参加をお待ちしています。

【日時】令和元年8月28日（水）(13:30 受付開始) 講演：14:00～16:00

【場所】時津公民館 講堂（住所：時津町元村郷429番地2）

【内容】「発達障害を理解しよう

～当事者の視点で障害を語りなおし、多様な個性が輝く社会づくりを目指す～」

【講師】シンポジウム＆質疑応答

「当事者の視点で障害を語りなおし、多様な個性が輝く社会づくりを目指す」

シンポジスト 富永遼子氏（就労継続支援事業所太陽工房生活支援員  
ピアソーター）

上田忠氏（ピアサポートみなど共同代表 ピアソーター）

茂山季子氏（のぞみ共同作業所 ピアソーター）

コーディネーター 田中悟郎（長崎大学医学部保健学科教授）

【申込み方法】①チラシ裏面の申込書に記入の上、福祉課に提出

②福祉課に電話

**※8月16日（金）までに申込みをして下さい。**

※手話通訳・要約筆記が必要な方は、申込みの際にお申し出ください。

※本講座は、文部科学省「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」採択事業の一環として実施します。



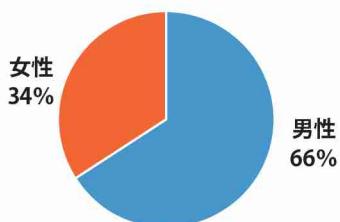
<問い合わせ先>  
時津町福祉課障害福祉係 担当：柴原  
TEL：865-6940（直通）  
FAX：881-2764

主催：時津町、長崎大学医学部保健学科

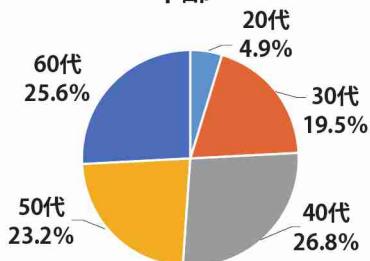
## 「こころの健康講座」アンケート結果

参加者数108、回収数82(回収率75.9%)

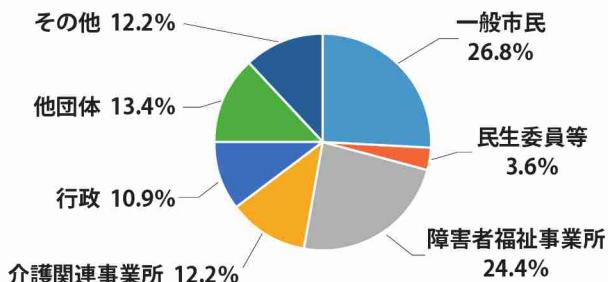
性別



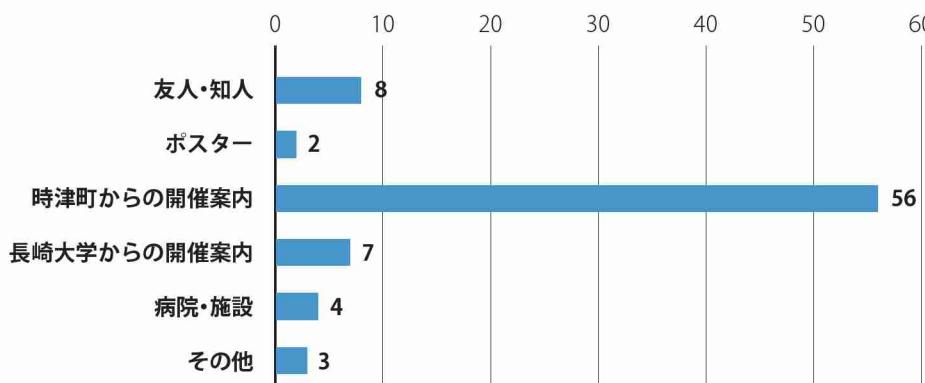
年齢



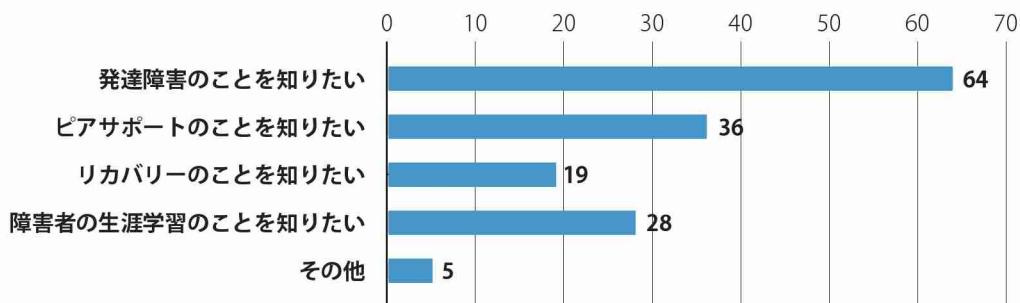
所属



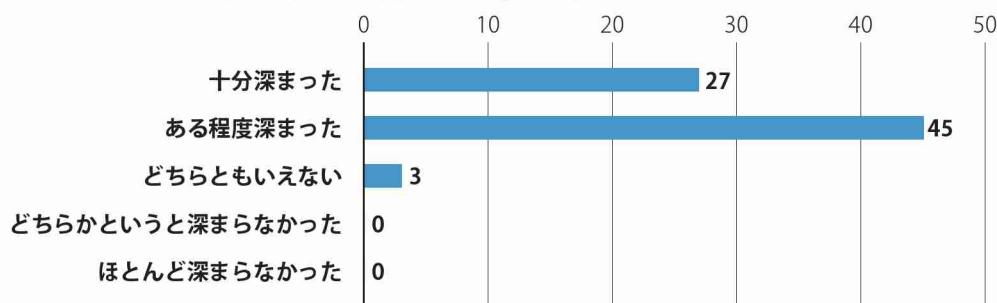
## この講座を何で知りましたか？



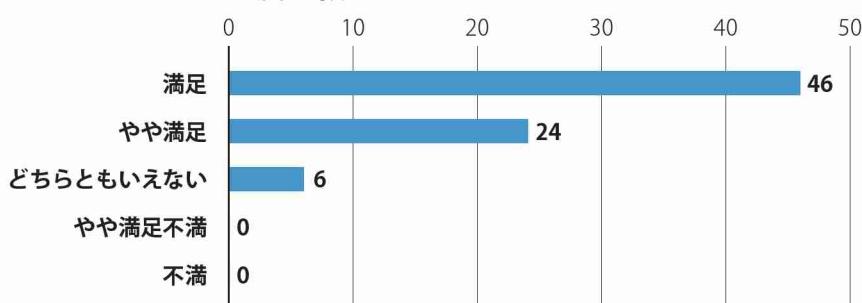
### 参加されたきっかけは何ですか？



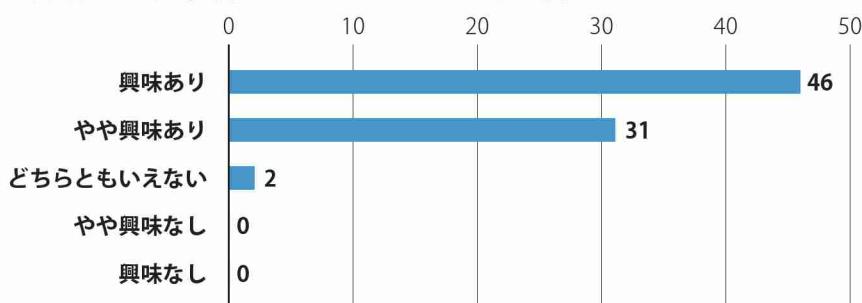
### 発達障害への関心や理解が深まりましたか？



### 満足度を教えてください



### 障害者の生涯学習プログラムへの興味や関心について



## アンケート(自由回答)

- 1 :とても良かったです。
- 2 :当事者の方の声を拝聴できる機会は少ないので、大変ありがとうございました。小学校の職員ですが、卒業後の進路、義務教育を終えた後の進路に保護者の方々は不安あり、悩れます。私自身も助言できるだけの理解を深めたいと常日頃から思います。町内の就労支援施設との情報交換をもっと進めていけるといいなと思います。「とき一ネット」への参加をしてくださりありがとうございます(^\_~)「知ること」は何にしても大切だなあーと思います。お三方の活動に感謝です！
- 3 :当事者の会の生の声、体験を聞くことができてとても貴重でした。3人の方が大変な状況から、やりがいや生きがいを見つけて、たくましく生きようとされているところやその過程がとても参考になりました。障害を持っていても、自分の欠点や短所に正面から向き合るのは勇気がいります。それを長所に変えていくのもすごいエネルギーだと思います。また必ずまわりの支えや共感してくれる方がいるというのも心強いと思いました。まずは目の前にいる人をありのままに受け止めて、しっかり話をきくことは大切だし、それなら私自身もできるなと思いました。実践していきたいです。
- 4 :本日は貴重なお話をありがとうございました。
- 5 :現在(長崎大学の学習プログラムに)参加中です。第一回目は有意義に過ごせました。今日の講演に関して、非常に興味があり、身内の為にもなるかと思います。発達障害に関するもっと知識を深めたいです。
- 6 :ありがとうございました。
- 7 :当事者の方から声が聞けて大変参考になりました。良く話を聞く、上から目線で言わないほうがいい。ありがとうございました。
- 8 :幼児の発達障害についての話を聞ければと思います。またこのような機会をもうけて頂ければと思います。
- 9 :5歳の子供が自閉スペクトラム症です。この子がもっと成長したときにこのような講演会に、彼自身が参加できる機会があればよいなあと思いました。
- 10 :「足下の悪い中」という言葉にどきっとしました。(障害についての研修会でもあるので)あたり前の表現というもののを見直していくことも大切だと思います。私自身もです。今まで気にもせず使っていたので。3人の方、スタッフの方ありがとうございました。
- 11 :Aさんのお話が一生懸命に話されて体験談が分かりやすくとてもよく伝わりました。「障害はその人の一部です」心に残りました。Bさんのお話が前向きで力強くよかったです。遠回りではありましたが落ち着かれて良かったですね。お料理も感心しました。おいしそうでした。えらいです。がんばって下さい。Cさんの発表もつらい時もあったのにいろんな人の助けで元気に前向きになられてよかったです。大雨の中いろいろな話をして下さってありがとうございました。
- 12 :どのくらいの人が就労につけているのか?知りたかったです。(児)の施設から卒業した人達の行く先。とっても良いお話を聞かせていただきました。
- 13 :当初は仕事の参考になればと思い参加しましたが、1番参考になったのは、自分の子どもへの対応でした。ADHDの我が子を、どうとわかっていないながらも自分の不安からしかつてしまう自分を反省したと同時に、障害・短所が長所に変えることができるということを知って、少し安心しました。ありがとうございました。
- 14 :発達障害とは無関係かもしれないのですが、引きこもりの弟の件でどちらに相談していいかわかりません…。
- 15 :お話がよくわかり、伝わってきました。支援者の立場、自殺願望者への対応に対し、上から目線ではなく共に悩むということが強くのりました。質問とその対応時間が良かったです。ご本人たちのお話はとてもいいですね。みなとにつながっている人たち、それ以外で苦しんでいる多くの若者達にどうつなげたらよいのか、今後の課題です。
- 16 :3人の方の発表を聞いて私も話を良く聞こうと思います。ありがとうございました。お疲れ様でした。
- 17 :大人になってから診断された後、いろんな混乱などもあったかと思いますが、障害うまく付き合うための発想が良いなと思いました。それぞれ得意なことを活かしたり、捉え方を変えてみることで大きく変わったということが分かりました。当事者の方が求める接し方を今後参考にしたいと思います。
- 18 :初めて発表を聞いた方もいらっしゃって貴重なお話を聞くことができて良かった。マイナスな面が見えやすい障

- 害で、プラスな面を発掘していくことは難しいながらも昇華させていくことはすごいと思った。攻めないことが大事と分かった。話をしっかり聞きたい。
- 19：学校や学童等、子ども時代に理解のある周りができる、その子の育ちに良い影響を与えて、大人になってから、今日の登壇者のような生き方が早い段階からできれば幸せなのかなと思います。ありがとうございました。
- 20：今後ピア活動などができるべきだと思っています。活動と一緒に参加できる機会を作っていただきありがとうございました。
- 21：当事者の方のお話を聞いてとても興味深かったです。ピアサポートとして活躍されていますが生きづらい社会を変えていくために、私達に求めることをもっと聞きたいと思いました。イライラの対応とても参考になりました。
- 22：当事者みなさんが過去をふり返りながら話している姿を見て、強い心を持った方たちだと感じました。自分の短所に気づいて、自分で長所へ変えようと思えるところが難しいところであるだろうが、自分を理解することが必要なことであるんだなあとと思いました。まず支援者として受容が大切であることを改めて感じました。
- 23：発達障害を持っている方の話をお聞きしたく参加させていただきました。お話を聞かせていただく中、障害をうけ入れてお話ししているお姿や考え方、互いにサポートされていることにも感銘を受けました。支援者としての言葉かけ等、発表者の方からなるほどの解決案など学ばせていただきました。ありがとうございました。
- 24：ピアサポーターの方々からのお話は非常に良く、日頃の支援にて役に立てていきたいと思います。ありがとうございました。
- 25：当事者の方が舞台上で自分のことを堂々と話される。立派だなーと感じました。このことが当事者の理解をするうえでとても大事なことだと感じました。
- 26：共生社会を考えるのにとても参考になりました。貴重な体験をお話いただきありがとうございました。
- 27：今回初めて利用者さんと一緒に当事者の話を聞いて今後どのように動き、役に立てるのか楽しみです。当事者さんの話を今後も聞く機会を増やしていきたいです。
- 28：非常に参考になりました。子供への支援に役立てていきたいと思います。ありがとうございました。
- 29：本人さんの生の声を聞いてとても興味深く参考になりました。自分のことを客観的に見ることができていて、すごいなと思いました。皆さん話し上手で大人数を前にしてもしっかりと話せていてとても心に響きました。ありがとうございました。
- 30：発達障害をお持ちの方の生の声が聞けて大変勉強になりました。「短所を長所に」が印象的でした。当事者の方の「とにかく話を聞いてほしい」との言葉も心に残りました。
- 31：最近、なんでもかんでも発達障害という言葉でくっついていることが多くあるように感じます。こんなに発達障害者って多くいらっしゃるのでしょうか?あまりにも健常者と区別しすぎるところもあるのではないか?疑問に思うことがたくさんあったりします。
- 32：当事者さんからの報告、とてもよかったです。ありがとうございました。
- 33：障害の特性をシンポジストが自分の言葉で経験を話されたことが実感でき生きづらさの理解に近づいたと思いました。このようなシンポジウムをまたお願ひします。
- 34：話を聞いてだれにでも何らかの発達障害はあると思う。ただ自分で気が付いていないと思いました。
- 35：私はおそらく発達障害だろうと。高卒後仕事につきましたが数回アルバイトをしただけ。両親の死後、うつを患い今に至っています。兄から誰でもそのくらいあると叱咤されます。私は自分が許せないし家族の恥だとう思いが消えない。
- 36：今は部署異動でしたが、病院精神科で6年半働いていました。そこでは不調時の様子ばかりをみているのでどうにも発達障害の大変な面、生活のしにくさに着目していました。甥っ子がADHDの診断を受けやはり将来のことを考えたときに不調時ばかりを想像して不安を抱いてしまいかがちでした。今回3名の方の本来の姿、活躍されていることを知り、とても前向きに考えることができました。
- 37：障害は私の全体ではなく、一部である。普通の部分もいっぱいあるという言葉に救われると感じました。孫が今春新1年生(小学生)になり本人、家族もとまどうことが多くありましたので・・・。
- 38：とても分かりやすく貴重なお話がとっても参考になりました。ありがとうございました。

- 39：3名の方々上手に発表され、とても分かりやすかったです。ピアサポートで仲間同士充実した活動をされているのだなと思いました。
- 40：親は年をとて子どもを支援するのに限界があるので社会的支援がもっとあると助かります。出会いときっかけがあると家族としては本当に助かります。
- 41：当事者の話を聞いて大変良かった。
- 42：Aさんのみ「障がい」とされていました。他の方も「害」は使用しないように伝えていただければと思います。
- 43：子どもが発達障害なのかわからないが、小さい頃より場の雰囲気がよめなかつたり突拍子な意見を言ったり、周りから「変わっている人」とみられています。きちんと精神科に行って診断してもらった方がいいのか?と悩んでいます。
- 44：お疲れ様です。お邪魔にならないでそれでも必要とされるなら何かお手伝いできればと考えて本日参加させて頂きました。自分もいろいろと学ばさせて頂きたいと思っております。本当に来てよかったです。ありがとうございました。皆様のお話を伺い、共感するところもたくさんありました。発達障がいの方々を受け入れる側の人間(我々)のいじめの問題も、互いの受容力、お互い様、優しさ、その当たり前の事実を真摯に受けとめ、皆が助け合いながら、生かされているという謙虚さが、今の私たちに圧倒的に欠けている現実があるのだと日々痛感しています。とにかくお三方の皆さん、すごく真面目で誠実な方たちだなあと感じました。素敵なことだと感じます。
- 45：勉強になりました。ピアサポートが時津で毎月開催されたらと思います。
- 46：発達障害でありながらもしっかり自立して他の障害の方の支援を行ったり、活動を行ったりしているところに勇気をもらいました。みなさんがされたように短所を長所に変える見方の変換が大事だなと思いました。

## 2. ひきこもりからのリカバリーフォーラム(ピアサポートみなとの共同開催)

日 時：令和元年10月12日(土) 13:30～16:00

場 所：プラットおおむら5階 中会議室

テー マ：ひきこもりからのリカバリー

開催案内：長崎県内の就労系事業所、地域活動支援センターにちらしを郵送

参加者数：71名

内 容：

開会挨拶

ピアサポートみなとの共同代表 上田 忠氏

事業概要説明

長崎大学医学部保健学科 田中 悟郎

シンポジウム「ひきこもりからのリカバリー」

就労継続支援B型事業所のぐさ 職業指導員 ピアスタッフ 杉本 哲文氏

長崎県ひきこもり家族会「花たば」代表 佐藤 正義氏

訪問看護ステーションきらり 作業療法士 田中 真奈美氏

閉会挨拶

ピアサポートみなとの共同代表 古田 勇貴氏





# ひきこもりからのリカバリー・フォーラム

仲間とともにみつけたぬくもりを、  
今こそ、みんなに届けたい

## 【日時】

令和元年10月12日（土）13：30-16：00  
(13時受付開始)

## 【開催場所】

プラットおおむら5階 中会議室（大村市本町458番地2）

※駐車場台数に限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください

## 【シンポジウム】「ひきこもりからのリカバリー」

杉本哲文氏（就労継続支援B型事業所のぐさ 職業指導員 ピアスタッフ）

佐藤正義氏（長崎県ひきこもり家族会「花たば」代表）

田中真奈美氏（訪問看護ステーションきらり 作業療法士）

## 【参加費】 無料

## 【主催】ピアサポートみなと 長崎大学医学部保健学科

### 【問い合わせ先・申込み先】

メールまたはFAXの件名「申込み：10月12日フォーラム」として、

①お名前、②連絡先（メールまたはFAX）を明記し、10月5日（土）までに下記のアドレスにお申込みください。本フォーラムは、文部科学省「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」採択事業の一環として実施します。

長崎大学医学部保健学科 田中悟郎

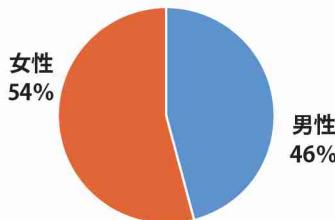
〒852-8520 長崎市坂本1-7-1 メール：goro@nagasaki-u.ac.jp

FAX: 095-819-7996 電話：095-819-7995

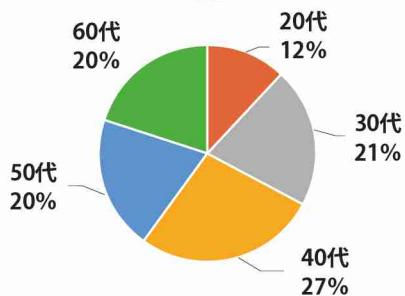
## ひきこもりからのリカバリー フォーラムアンケート結果

参加者数71名、回答者数51名、回収率72%

性別



年齢



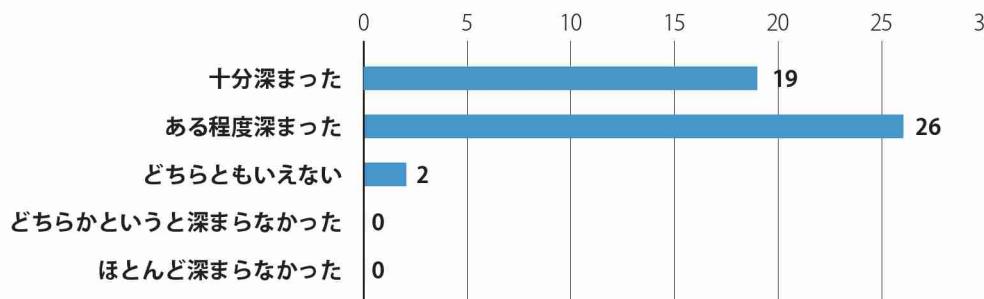
この講座をどのようにして知りましたか？



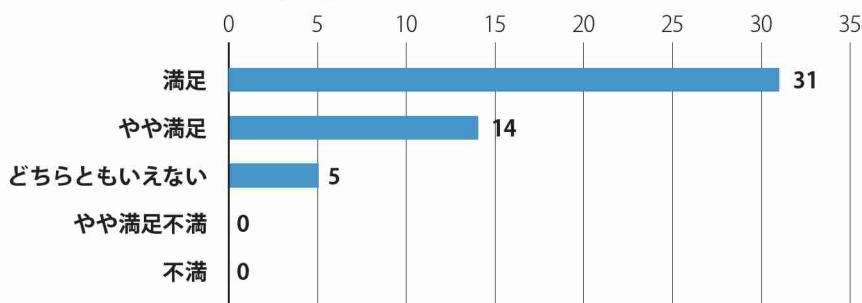
参加されたきっかけは何ですか？



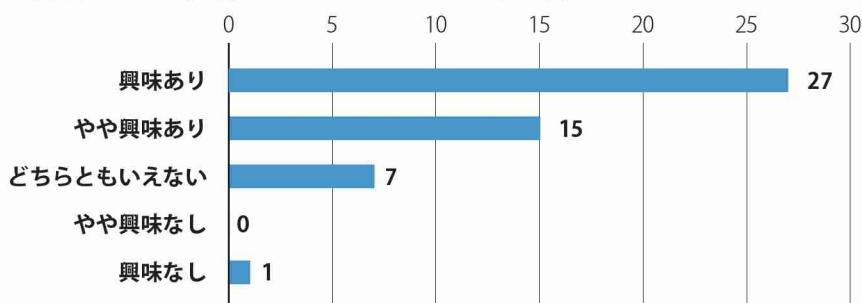
### ひきこもりからのリカバリーへの関心や理解が深まりましたか？



### 満足度を教えてください



### 障害者の生涯学習プログラムへの興味や関心について



## アンケート(自由回答)

- 1：知り合いが多く、つながりを感じた。現状からまずは一歩から…正解はないので親としての子の引きこもり状況時(15年前)を思い出しました。本人曰く、『無駄ではなかった』とのこと。映像の文字が中間の机からは、見えなかった。
- 2：Aさんのお話が特に胸に響きました。ありがとうございました。
- 3：色々なご意見・ご指摘勉強になりました。今後の為に、役立てていきます。
- 4：色々な話を聞かせてもらってよかったです。
- 5：よい経験をお聞きすることができ、とても参考になりました。ありがとうございました。
- 6：リカバリーされてピアスタッフとして働いていらっしゃるAさん、子供さんの不登校で関わられておられるBさん、訪問看護ステーションのCさん、その中でもピアスタッフの必要性と医師、看護師、作業療法士の当事者との関わり方で支援と拒否されている方もいて大変だと思いました。
- 7：Aさんの話がユーモアもあり共感も持てて参考になりました。とても良かったです。
- 8：内容の濃いフォーラムで参加できて良かったです。講師の先生方の20分間のお話、とても勉強になりました。  
質疑応答・感想の時間をたくさん取られている構成も良いなと思いました。ありがとうございました。
- 9：当事者の側からの話、家族側からの話と聞いて、当事者、家族を含めてのサポートが必要とされているということで、今回の体験発表で回復まで何が必要かというところが見えてきました。やはり個人、その家族を含め、知識あるピアソポーターは必要だと感じました。
- 10：三者の立場からのお話が聞けて良かったです。
- 11：Aさんが、初めての20分の講演を原稿をあまり読まず、発表していたのはすごいと思った。私もここで話せたらいいなあと思った。
- 12：次回の開催時にもぜひ参加したいです。ありがとうございました。
- 13：自分や自分の家族に対しても共感できるところがあり、自分や家族のことも少しだけですが許せるようになれる  
そうな気がしました。きらりみたいな場所が出来てくれたこともうれしいです。今日貴重な話が聞けて良かったです。ありがとうございました。
- 14：親亡き後が取り上げられていましたが、親亡き後は引きこもりは続くのか、自然と引きこもれなくなるものなのか。興味があります。ただ、親亡き後の前に、親の介護が必要な場合も多いのではと気になります。東京のリカバリーフォーラムにも負けず劣らずの熱気でした。
- 15：貴重な中身の濃いお話が聞けて、ありがとうございました。温かな和やかな時間の中で有意義な時がありました。
- 16：ピアサポートみなどの方々と長崎大学の方々との共同で活動されることにとても素晴らしい事だと思います。  
協力的していくことの大切さ、体験経験された方のお話を聞くことが出来て勉強になりました。本日はありがとうございました。
- 17：A市で不登校、引きこもりの家族会の活動をしているものです。当事者、家族、支援者、それぞれの立場からのお話を聞くことができてとても勉強になりました。親としては、人並みというか、一般就労をして自分の力で生きていくことがリカバリーで、それが自立であり、理想だという思いがあるのですが、今日皆さんのお話を聞いて、本人が本人らしく生きていくことが大事なのだと感じました。他者との比較ではなく、本人がどう思うのか、どうしたいのかを大事にできたらと思います。
- 18：今日また学びがあり、素晴らしいです。リカバリーという、力強い言葉で皆さんつながっているという事実を感じられました。またこのような会をよろしくお願いします。
- 19：しばらくぶりに、みなとの皆さんとお会いましたが、大変大きな励ましを受けています。お一人お一人が生き生きと、活動してきたことを感動を覚えながら味わっております。自宅に居て外出もなかなか難しい次男に対して、今後すぐに具体的に働きかけるときの参考にさせていただきます。ありがとうございました。
- 20：長崎大学が実施している障害者の生涯学習プログラムのことを全く知りませんでした。情報をもっと知りたかったです。
- 21：福祉の仕事について1年、右も左もわからないまま日々を過ごし、本日の研修での話を聞かせていただき、自

- 分の中でもなにか道筋が見えたように思います。本日はありがとうございました。
- 22 : 大変勉強になりました。司会、スタッフの方々、シンポジストの皆様に感謝申し上げます。
- 23 : Aさんの「追い込まれている人間に正論は凶器」という言葉は大変印象に残ったし共感しました。とてもいいお話をありがとうございました。「リカバリーとは?」それぞれの解釈を聴けてとても良い質問だったといい回答だったと思いました。3人の落ち着いた司会で安心できました。ありがとうございました。
- 24 : 引きこもりに関する体験談や家族、支援者それぞれのお話が聞けてとても勉強になりました。特にAさんのお話がとても心に響きました。
- 25 : 心がほっこりなりました。ありがとうございました。
- 26 : ありがとうございました。お話を聞きながらハッとさせられることが多々ありました。支援者の中心に「本人、家族がいること」初心に戻った気がしました。明日からまた頑張っていこうと思います。「努力は永遠…」
- 27 : 赤裸々なAさんの話は心に届きました。ありがとうございました。
- 28 : 今日はありがとうございました。引きこもりについて、少しあは学べたかと思います。また、楽しみにしてます。
- 29 : ありがとうございました。「リカバリー」について考えさせられました。
- 30 : 私自身の子供も、不登校や引きこもりの経験があり、私たち家族とも重ねながら、お話を聞かせて頂きました。なかなか、私たち親も理解できず、私たち親以上に本人も苦しかったのではないかと反省しています。今は少しづつですが、子供の気持ちも考え方添ってゆければと思っております。統合失調症も患っており、社会復帰にはまだまだだと思いますが、まずは同じ悩みを持つ、信頼できる仲間とお互い助け合いながら、成長していくってくれればと思います。
- 31 : 引きこもりからの脱却で「人を信じることが出来たことがよかったです」という意見が大変感銘を受けました。そのような出会いの場としての居場所と仲間。身近なところにできたらいいなと思いました。学びの多いフォーラムでした。ありがとうございました。
- 32 : 引きこもりから立ち直って一般就労されている方がいたり、家族支援の大切さや、訪問看護が充実していて、引きこもりの方もサポートしていることを知って、昔より進んでいることが理解できて良かったです。

### 3. 障害者の生涯学習推進フォーラムin五島(サポートセンターきらりとの共同開催)

日 時：令和元年11月29日(金) 14:00～17:00

場 所：サポートセンターきらり

テー マ：「ピアサポートとリカバリー(ピアソーターの可能性)」

開催案内：長崎県内の就労系事業所、地域活動支援センターにちらしを郵送

参加者数：37名

内 容：

開会挨拶

サポートセンターきらり 赤瀬 千香子氏

事業概要説明

長崎大学医学部保健学科 田中 悟郎

講座「ピアサポートとリカバリー(ピアソーターの可能性)

—リカバリーストーリーと元気であるために実践していること—

ピアサポートみなと共同代表 ピアソーター 上田 忠氏

ピアサポートみなと共同代表 ピアソーター 古田 勇貴氏

ピアサポートみなと副代表 ピアソーター 片岡 史和氏

ピアサポートみなと副代表 ピアソーター 片岡 洋子氏

ピアサポートみなと副代表 ピアソーター 富永 遼子氏

本事業コーディネーター のぞみ共同作業所長 河野 知房氏

社会福祉法人さゆり会理事長 林田 輝久氏

閉会挨拶





内容 リカバリーストーリー、WRAP、意見交換会

日時 令和元年 11月 29日（金）14:00～17:00（途中休憩あり）

講師 上田忠氏（ピアサポートみなど共同代表）、古田勇貴氏（ピアサポートみなど共同代表）

片岡史和氏（ピアサポートみなど副代表）、片岡洋子氏（ピアサポートみなど副代表）、

富永達子氏（ピアサポートみなど副代表）

コーディネーター 河野知房氏（のぞみ共同作業所所長）、

田中悟郎（長崎大学医学部保健学科教授）

場所 サポートセンターきらり（五島市紺屋町 2-9）

主催 サポートセンターきらり、長崎大学医学部保健学科

#### 申込み先・問い合わせ先

メールまたはFAXの件名を「申込み：11月29日フォーラム」として、①お名前、②連絡先（メールまたはFAX）を明記し、11月21日（木）までに下記のアドレスにお申込みください。本フォーラムは、「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」採択事業の一環として実施します。

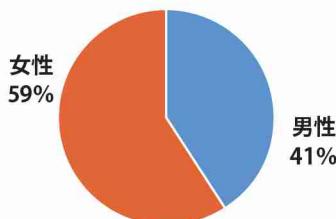
サポートセンターきらり 担当：赤瀬

メール：chikatsu@abeam.ocn.ne.jp FAX：0959-72-4822 電話：0959-72-4722

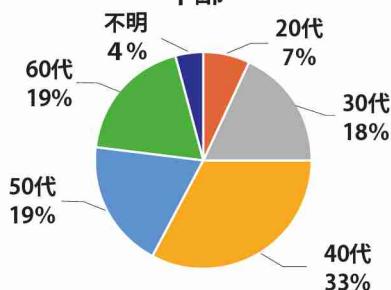
## アンケート結果

参加者数37名、回答者数27名、回収率73%

性別



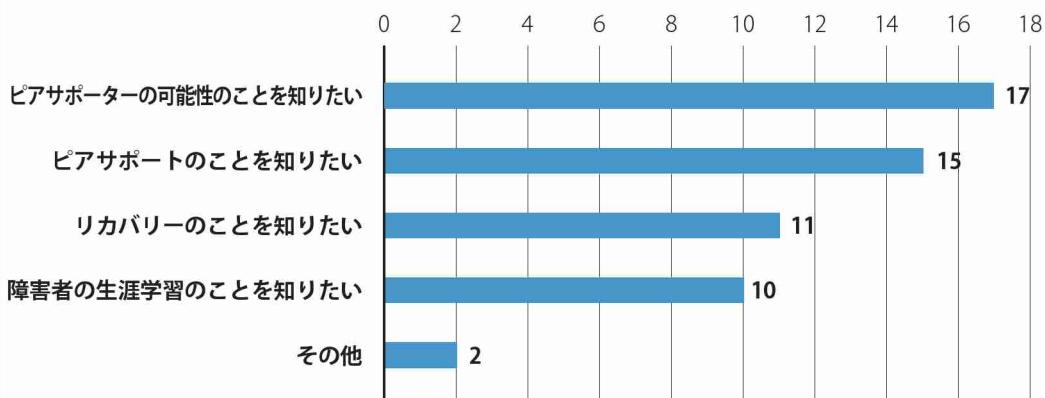
年齢



このフォーラムを何で知りましたか？



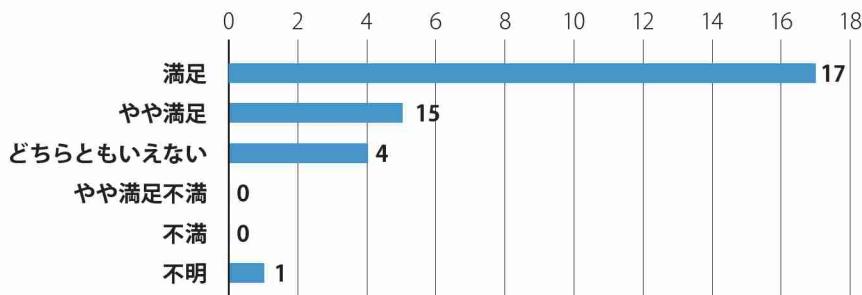
このフォーラムに参加されたきっかけは何ですか？



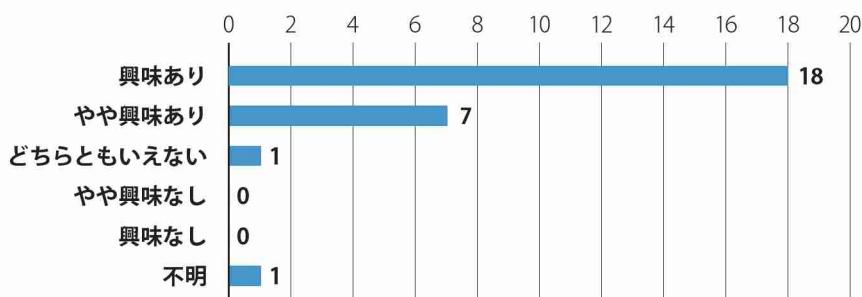
このフォーラムに参加されて、ピアサポートとりカバリーへの関心や理解が深まったと思いますか？



このフォーラムについての満足度をお教えください



長崎大学が実施している障害者への  
生涯学習プログラムへの興味や関心をお教えください



## アンケート(自由回答)

- 1 : 要望したいことがあります。一度五島にある精神障害に関わる事業所を回っていただけませんか?私の勤めている事業所の利用者さんに閉塞感を感じることが増えてきました。利用者さんに無理強いさせるべきでないことは承知の上で、なんとかしたいと思うこともあります。どうか一度ご検討頂けないでしょうか?
- 2 : 本当に今日はありがとうございました。みなさんのお話、みんなの雰囲気、目には見えないけど本当にキズナや信頼があるんだなあと感じました。感動です。たびたび五島に遊びに来てください。みなさんにお会いできてうれしいです!
- 3 : みなさんの貴重な体験談や参加者との交流がとても楽しかったです。学びの場になりました。ありがとうございました。
- 4 : 島の人以外の話が聞けて良かったです。本土と離島との違いがまだまだあるな~と感じました。離島でも出来る様になれば良いなと思います。月1or2せて二か月に1回五島に来てほしい。
- 5 : 本日はありがとうございました。皆様の言葉や今この場にいる皆様の頑張りに私自身も元気をもらいました。ありがとうございました。
- 6 : みなさんの体験談を聞いてすごく勉強になりました。逢えて大変嬉しかったです。ますますお元気で!
- 7 : 今後、精神科病棟の鉄格子は無くしてほしい。私は統合失調症ですが、TVのニュースで、殺人事件があると、犯人は「統合失調症で通院していた。だから、当時責任能力は無かった。」と報道されるが、私は殺人はしません!だから“きらり”が世間にオープンになっている様に、“精神病患者の真の姿はこうだよ”とみんなにアピールしてほしい。
- 8 : また五島に来て下さい!
- 9 : ピアソポーターの方のお話が貴重なもので、とてもありがとうございました。ありがとうございました。
- 10 : リカバリーにとりくむ大切なポイントのひとつに適度のストレス(負荷)、その有効性を高める為のカリキュラム化(プログラム化)を考えます。参考にして今後の業務に役立てます。五島市のともするとリカバリーのチャンスをうばっているかもしれない支援に疑問。
- 11 : いろんな意見が聞けてとても良かったです。
- 12 : 色々なお話をありがとうございました。
- 13 : ありがとうございました。とても今からの業務に対して学習になりました。
- 14 : またこの様な機会がありましたら参加させてください。ありがとうございました。
- 15 : 途中退席にて最後まで聞けなかったのが残念でした。“リカバリー”の途中であるとか、現在に至るまでのお話など、とても貴重な意見が聞けたことに感謝します。ありがとうございました。お疲れ様です。

#### 4. 障害者の生涯学習活動成果報告フォーラム(予定)

日 時：令和2年1月26日(日) 13:30～16:30

場 所：長崎大学医学部保健学科101講義室

テー マ：令和元年度事業の成果報告

開催案内：長崎県内の就労系事業所、地域活動支援センターにちらしを郵送

参加者数：未定

内 容：

開会挨拶

長崎大学医学部保健学科 田中 悟郎

講演「リカバリーカレッジの理念と実践例」

東京大学大学院医学系研究科精神看護学分野准教授 宮本 有紀氏

シンポジウム「学び、希望、リカバリー」

本事業コーディネーター のぞみ共同作業所長 河野 知房氏

学習プログラム受講者 吉岡 洋氏

ピアサポートみなと副代表 片岡 洋子氏

社会福祉法人南高愛隣会 長崎能力開発センター職員 駒田 加奈子氏

閉会挨拶

長崎大学医学部保健学科 田中 悟郎

文部科学省「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」採択事業

## 障害者の生涯学習活動 成果報告フォーラム

日時：2020年1月26日（日）13:30～16:30

会場：長崎大学医学部保健学科101講義室

本事業は、様々な苦労を抱えながらも、仲間とともに、学びを通じて、夢や希望を持ち、自分らしく生活できるよう、当事者の皆様を支援することを目的に実施しております。本フォーラムは、令和元年度の事業の成果報告をテーマに開催し、本事業に関わって頂いた皆様から大いに語って頂きます。参加費は無料です。多くの皆様のご参加をお持ちしております。

13:00 受付

13:30～14:30

講演 「リカバリーカレッジの理念と実践例（リカバリーカレッジガイドンス）  
<http://recoverycollege-research.jp/guidance/>」

宮本 有紀氏（東京大学大学院医学系研究科精神看護学分野准教授）

14:40～16:30 シンポジウム「学び、希望、リカバリー」

河野 知房氏（本事業コーディネーター、のぞみ共同作業所所長）

吉岡 洋氏（学習プログラム受講者）

片岡 洋子氏（ピアサポートみなと副代表）

駒田 加奈子氏（社会福祉法人南高愛隣会、長崎能力開発センター職員）

主催：長崎大学医学部保健学科

### 申込み方法

メールまたはFAXの件名を「申込み：1月26日フォーラム」として、①お名前、  
②連絡先（メールまたはFAX）を明記し、1月17日（金）までに下記のアドレスにお申し込みください。

長崎大学医学部保健学科 田中悟郎

〒852~8520 長崎市坂本1-7-1 メール：[goro@nagasaki-u.ac.jp](mailto:goro@nagasaki-u.ac.jp)

FAX：095-819-7996 電話：095-819-7995

ポスター作成  
カタオカヨウコ・フミカズ

2020

# 広報及び事業成果報告活動

## 1. Web広報

平成30年8月より公開している本事業ホームページにておいて適宜活動報告等の更新を行った。

ホームページ(URL) : <http://www2.am.nagasaki-u.ac.jp/jissen-kenkyu/index.html>

## 2. 事業成果報告

### (1)第53回日本作業療法学会

日 時：令和元年9月6日(金)～8日(日)

会 場：福岡県福岡市

発表演題：精神保健領域の新たなサービスであるリカバリーカレッジに関する文献レビュー

報 告 者：石橋俊作、鎌下莉緒、河野知房、徳永瑛子、田中悟郎

発表演題：発達障害・精神障害のある人への生涯学習活動の実践報告

報 告 者：鎌下莉緒、石橋俊作、河野知房、徳永瑛子、田中悟郎

発表演題：地域活動支援センター3型におけるピアソポーターの必要性

報 告 者：河野知房、廣田紗希

### (2)第27回日本精神障害者リハビリテーション学会

日 時：令和元年11月22日(金)～24日(日)

会 場：大阪府吹田市

発表演題：学校卒業後における障害者の学びの場の支援に関する実践報告

報 告 者：河野知房、田中悟郎

### (3)第65回九州精神医療学会

日 時：令和元年12月12日(木)～13日(金)

会 場：長崎県長崎市

発表演題：学校卒業後における障害者の学びの場の支援に関する実践報告

報 告 者：河野知房、石橋俊作、鎌下莉緒、徳永瑛子、岩永竜一郎、田中悟郎

### (4)第40回長崎県精神科リハビリテーション研究会(予定)

日 時：令和2年3月21日(土)

会 場：長崎県佐世保市

発表演題：ピアサポートとリカバリー

報 告 者：片岡史和、上田忠、河野知房

### (5)第2回九州作業療法学会(予定)

日 時：令和2年6月20日(土)～21日(日)

会 場：長崎県長崎市

シンポジウム：大人の発達障害とは？－自分らしく生きるために当事者の視点で障害を語りなおす

報 告 者：富永遼子、上田忠、茂山季子

座 長：田中悟郎

## (1)第53回日本作業療法学会抄録

### 発表演題①：精神保健領域の新たなサービスであるリカバリーカレッジに関する文献レビュー

#### 【序論】

リカバリーとは、精神障害者(以下、当事者)が自分の状態を把握し自身のケアの専門家となるとともに、自分の能力や可能性を見出し、人生の意味や目的を新たに構築することである。リカバリーを促進する新たなサービスとしてリカバリーカレッジ(Recovery College;以下、RC)が2009年に英国で設立され、現在、オーストラリア、カナダ、日本などにも広がりつつある。RCは、当事者と専門職が共同創造(co-production)する教育的アプローチであり、複数の研究でRCに参加後リカバリーや生活満足度が向上したことや医療費削減効果があったことなどが報告されている。本研究では、日本におけるRCの普及を目的に海外のRCの研究成果を分析した。

#### 【方法】

「recovery college」を検索語としPubMedを用いて検索した。ヒットした文献の中からRCに該当するか否かを精査し、対象となる文献を抽出した。

#### 【結果】

最終検索日は2018年12月29日で、計10の文献を分析対象とし、RCの「特徴」、「効果」、「今後の課題」をまとめた。

##### 1. RCの特徴

RCの最も大切な理念の1つが共同創造(co-production)である。これは、当事者と専門職が協働して運営するという意味である。Kellyら(2017)は、当事者と多職種による共同創造が重要で、当事者と専門職は対等な立場であり、共に学び合う関係であると報告した。Crowtherら(2018)は、RCでは専門職も学生として参加していると報告した。

次にRCが教育的な概念に基づいているのも特徴であり、Jayら(2017)は、RCが生涯学習に焦点を当てた非臨床的な方法を採用していると報告した。RCでは様々な講座が提供されており、その内容は各施設により異なる。Burhouseら(2015)は、人生における困難への対処法や前向きに生きるための自信や知識を習得させる内容が主であり、似たような経験を持つピアトレーナー(以下、ピア)が自身の経験を語る内容も重要と報告した。

##### 2. RCによる効果

Burhouseら(2015)は、RCへの参加後、参加者の94%がより多くの希望を感じ、91%がメンタルヘルスに関する知識や自己認識が向上したと報告した。Stevensら(2018)は、不安やストレスの軽減、自信や自尊心の向上が認められたと報告した。Cameronら(2018)は、参加者にとってピアの知識や経験は励ましになり、希望やモチベーションにもなると報告した。Bourneら(2017)は、RC参加後、参加者の精神保健サービスの利用が減少し医療費の削減にも効果を及ぼしたと報告した。

##### 3. 今後の課題

今回対象となった文献の多くは、質的な研究であったため、今後は量的な研究を実施していく必要がある。Newman-Taylorら(2016)は、パイロットかつ質的研究であるために成果に限界があるとし、Stevensら(2018)も、リカバリーを検証するための評価尺度を用いることが重要と報告した。またTonyら(2018)は、無作為化された介入研究などをを行う必要性があると指摘した。

#### 【結論】

国際的に広まりつつあるRCの海外文献の研究成果を分析した。エビデンスとしてはまだ不足しているものの、様々な面に良い影響を及ぼすことが確認された。日本においても同様の研究が進み、RCが全国的に普及していくことが望まれる。

## 発表演題②：発達障害・精神障害のある人への生涯学習活動の実践報告

### 【序論】

厚生労働省(2017)は、精神障害者が地域の一員として安心して自分らしい暮らしをすることができるよう地域包括ケアシステムの構築を推進している。その事業の一つにピアソーターの養成があるが、都道府県のピアソーター養成の実施状況は52.3%にすぎない。

文部科学省(2018)は、「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」事業を公募し、学校卒業後の障害者が社会で自立して生きるために必要となる力を生涯にわたり維持・開発・伸長し、共生社会の実現に向けた取組を推進する方針を示した。

そこで本研究は、文部科学省の委託事業として実施し、発達障害者及び精神障害者のピアソーター養成にも貢献できるような、「学校から社会への移行期における学習プログラム(以下、移行PG)」と「生涯の各ライフステージにおける学習プログラム(以下、生涯PG)」をピアソーターと協働で開発し、その有効性について評価研究を行った。

### 【方法】

長崎県内の地域活動支援センター、就労(継続、定着、移行)支援事業所、自立訓練事業所、相談支援事業所の計397施設に本研究の目的や方法等を記載した移行PGと生涯PGの受講者募集要項を送付した。なお、本研究は筆頭演者の所属する大学の倫理委員会の承認を得て実施した。

### 【結果】

受講志願者は、移行PG11名(発達障害者；男性7名、女性4名；平均年齢22.8歳)、生涯PG13名(発達障害者または精神障害者；男性9名、女性4名；平均年齢46.2歳)であった。ピアソーターは、地域で定期的に活動しているピアサポートグループの代表・副代表に依頼した。移行PGの目標は「仲間と出会い、自分の特性を知る」とし、月1回日曜日の13:30-16:30に計5回(初回「ピアソーターの体験談」、2回「障害の心理教育」、3回「コミュニケーション」、4回「ストレス対処法」)。5回「自分の特性を伝える、修了式」)、大学で実施した。平均参加者数(名/回)は、受講者10.4、ピアソーター 4.4、学生6.6、施設職員1、コーディネーター 1、大学教員2、計25.4であった。移行PG修了時の受講者11名の満足度は、「満足」6名、「やや満足」5名であった。「無理してダメな自分を隠そうとせず自分らしくいこうと気づけた」「発達症の特性について他の人と意見交換するのは初めてでとても面白い話が多かった」などの感想があった。生涯PGの目標は「夢や希望を持って生きる」とし、月1回日曜日の13:30-16:30に計5回(初回「ピアソーターの体験談」、2回「障害の心理教育」、3回「WRAP」、4回「恋愛・結婚、当事者研究」)。5回「ストレス対処研究、修了式」)、大学で実施した。平均参加者数(名/回)は、受講者9.8、ピアソーター5、学生3.6、その他0.4、コーディネーター1、大学教員1、計20.8であった。生涯PG修了時の受講者9名の満足度は、「満足」5名、「やや満足」4名であった。「仲間の大切さを知り、生きていく勇気が得られた」「皆さんから元気を頂いたこと、つながりを結べたことを感謝したい」などの感想があった。

### 【結論】

本PGは、①障害者当事者は「Expert by Experience(経験のある当事者専門家)」、②ピアソーターと専門職等が共同創造(co-production)、③様々な気持ちの言語化及び主体的・対話的な学びの推進、などの理念のもと実施した。その結果、障害者当事者の語りの中にPGの有効性に言及する内容を確認することができた。

## 発表演題③：地域活動支援センターⅢ型におけるピアソポーターの必要性

### 【背景】

地域活動支援センターⅢ型事業である「のぞみ共同作業所」(以下、「のぞみ」)は、1982年に長崎県内初の小規模作業所として設立した。現在「のぞみ」は、障害の有無にかかわらず、誰もが安心して利用できる地域に根ざした事業所を目指している。これまで、職員と利用者、家族等のボランティアによって「のぞみ」は支えられてきた。しかし、近年の「のぞみ」のようなⅡ型の作業所は全国的に減少傾向にある。長崎県についても同様であり、長崎市ではこの5年間にで半分以下に減少した。今後地域で必要とされる事業所になるためには、支援者と障害当事者がお互いに協力し合うことが、より良いサービスに繋がると考えた。そこで、今年度より有志によるピアソポーターを新たに3名起用した。それぞれが特性を生かした役割を担い、職員と利用者の架け橋となる立場で活躍している。しかし、まだ導入して間もなく、試験段階であることから様々な課題が出てきている。

本研究ではピアソポーターに対し、職員や利用者、そして本人それぞれの視点から、現状と今後の可能性についての考え方や意見を比較し、ピアソポーター体制の充実を図ることを目的としている。

### 【方法】

対象は、職員3名、ピアソポーター3名、利用者8名とした。作業所内の面談室にて、質問用紙を見てもらいながらインタビュー形式で15分程度の聞き取り調査を行った。対象者には、インタビュー内容や個人情報の取り扱いについて書面にて説明を行い、同意を得た。質問内容は、①ピアソポーターを知っていたか、②導入当初に感じたこと、③導入前後で作業所の雰囲気は変わったか、④それぞれの役割は果たせているか、⑤今後も継続する必要があるか、の5つを質問項目に設定した。

### 【結果】

まずピアソポーターという立場については、ピアソポーター本人を除く全員が知らなかった。利用者の立場からは、ピアソポーター導入によりはじめ戸惑いや不安を感じていたが、「つらいときに話を聞いてくれたり、助言をしてくれたりしり」とほぼ全員がピアソポーターの効果を実感しており、今後も継続していくべきだという回答が多かった。職員の立場からは、「職員が気づけていないトラブルにいち早く対応できている」「安心できる場を作ってくれている存在」と効果を実感する声が挙がっており、継続に関しても肯定的な意見が多かった。ピアソポーターの立場からは、全員が役割を実感しており、「責任感が生まれ、周囲の利用者に対するより意識を向けるようになった」と、前向きな回答が得られた。以上のような導入によって良い影響を感じられる回答の一方で、どの立場からもピアソポーターの心理的負担を心配する声が挙がった。また、ピアソポーターからも活動が増えたことで体調管理が難しくなったとの声が挙がっていた。

### 【考察・展望】

今回の聞き取り調査の結果、ピアソポーターの導入について、それぞれの立場から普段は確認できない考え方や意見を聞くことができた。「のぞみ」のような地域活動支援センターⅢ型では低予算の運営費から人員不足が問題視されている一方で、地域の受け皿としての利用者のニーズは大きい。今回の結果からは、より良い活動環境を考える上で当事者によるサポートは双方にとっても良い影響があることが分かり、ピアソポーター体制を継続していく意義を確認できた。ただ、ピアソポーター自身の体調管理の困難さや、それに対する周囲の懸念も挙がっており、今後施設側が環境設定や日常的な配慮をすることが必要なことも明らかになった。今回明確化した問題点に関しては早急に対策を進めていきたい。

## (2)第27回日本精神障害者リハビリテーション学会抄録

### 発表演題：学校卒業後における障害者の学びの場の支援に関する実践報告

#### 【背景】

厚生労働省(2017)は、精神障害者が地域の一員として安心して自分らしい暮らしをすることができるよう地域包括ケアシステムの構築を推進している。その事業の一つにピアサポートの養成があるが、都道府県のピアサポート養成の実施状況は52.3%にすぎない。

文部科学省(2018)は、「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」事業を公募し、学校卒業後の障害者が社会で自立して生きるために必要となる力を生涯にわたり維持・開発・伸長し、共生社会の実現に向けた取組を推進する方針を示した。

そこで本研究は、昨年度から文部科学省の委託事業として発達障害者及び精神障害者を主対象に生涯学習活動を実践した内容を報告したい。なお、本研究は第2演者の所属する大学の倫理委員会の承認を得て実施した。

#### 【事業概要】

##### 1. 基本理念

①障害者当事者は「Expert by Experience(経験のある当事者専門家)」、②ピアサポートと専門職等が共同創造(co-production)：「教える」→「ともに学ぶ」、「支える」→「ともに生きる」、③様々な気持ちの言語化及び主体的・対話的な学びの推進

##### 2. 障害者の生涯学習プログラムの開発

「学校から社会への移行期における学習プログラム(以下、移行PG)」と「生涯の各ライフステージにおける学習プログラム(以下、生涯PG)」をピアサポートと協働で開発・実施した。昨年度のPG受講志願者は、移行PG11名(発達障害者；男性7名、女性4名；平均年齢22.8歳)、生涯PG13名(発達障害者または精神障害者；男性9名、女性4名；平均年齢46.2歳)であった。ピアサポートは、ピアサポートグループのメンバーに依頼した。移行PGの目標は「仲間と出会い、自分の特性を知る」とし、月1回日曜日の13:30-16:30に計5回(初回「ピアサポートの体験談」、2回「障害の心理教育」、3回「コミュニケーション」、4回「ストレス対処法」、5回「自分の特性を伝える、修了式」)、大学で実施した。「無理してダメな自分を隠そうとせず自分らしくいこうと気づけた」などの感想があった。生涯PGの目標は「夢や希望を持って生きる」とし、月1回日曜日の13:30-16:30に計5回(初回「ピアサポートの体験談」、2回「障害の心理教育」、3回「WRAP」、4回「恋愛・結婚、当事者研究」、5回「ストレス対処研究、修了式」)、大学で実施した。「仲間の大切さを知り、生きていく勇気が得られた」などの感想があった。

##### 3. 連携協議会の開催

ピアサポート 2名を含む委員16名から構成された会議を計4回開催し効果的な実施体制等を検討した。

##### 4. 生涯学習推進フォーラムの開催

障害者の生涯学習を推進する目的でフォーラムを計3回開催し、延べ229名参加した。

### (3)第65回九州精神医療学会抄録

#### 発表演題：学校卒業後における障害者の学びの場の支援に関する実践報告

##### 【背景】

文部科学省(2018)は、「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」事業を公募し、学校卒業後の障害者が社会で自立して生きるために必要となる力を生涯にわたり維持・開発・伸長し、共生社会の実現に向けた取組を推進する方針を示した。

そこで本研究は、昨年度から文部科学省の委託事業として発達障害者及び精神障害者を主対象に生涯学習活動を実践した内容を報告したい。なお、本研究は長崎大学大学院医歯薬学総合研究科倫理委員会の承認を得て実施した。

##### 【事業概要】

「学校から社会への移行期における学習プログラム(以下、移行PG)」と「生涯の各ライフステージにおける学習プログラム(以下、生涯PG)」をピアサポーターと協働で開発・実施した。昨年度のPG受講志願者は、移行PG11名(発達障害者:男性7名、女性4名;平均年齢22.8歳)、生涯PG13名(発達障害者・精神障害者:男性9名、女性4名;平均年齢46.2歳)であった。ピアサポーターは、ピアサポートグループのメンバーに依頼した。移行PGの目標は「仲間と出会い、自分の特性を知る」とし、月1回日曜日13:30-16:30に計5回(初回「ピアサポーターの体験談」、2回「障害の心理教育」、3回「コミュニケーション」、4回「ストレス対処法」、5回「自分の特性を伝える、修了式」)、大学で実施した。「無理してダメな自分を隠そうとせず自分らしくいこうと気づけた」等の感想があった。生涯PGの目標は「夢や希望を持って生きる」とし、月1回日曜日13:30-16:30に計5回(初回「ピアサポーターの体験談」、2回「障害の心理教育」、3回「WRAP」、4回「恋愛・結婚、当事者研究」、5回「ストレス対処研究、修了式」)、大学で実施した。「仲間の大切さを知り、生きていく勇気が得られた」等の感想があった。





# 会 議 報 告





## 1. 連携協議会

委員22名

【外部委員12名】上田忠(ピアサポートみなど・共同代表)、古田勇貴(ピアサポートみなど・共同代表)、片岡史和(ピアサポートみなど・副代表)、片岡洋子(ピアサポートみなど・副代表)、富永遼子(ピアサポートみなど・副代表)、鶴宣彦(長崎県教育庁特別支援教育課・係長)、安野啓一郎(長崎県発達障害者支援センターしおさい副所長)、松浦兵吉(長崎障害者職業センター・主任障害者職業カウンセラー)、松澤克政(長崎労働局・職業安定監察官)、井戸裕彦(長崎こども・女性・障害者支援センター・係長)、奥野由美(長崎発達支援親の会・会長)、吉田勝博(大村市社会福祉協議会 相談支援事業所 地域生活支援センター・管理責任者)

【コーディネーター1名】河野知房(NPO法人のぞみ共同作業所・所長)

【保健学科教員4名】澤井照光(学科長:事業推進責任者)、田中悟郎(教授:プロジェクトリーダー)、岩永竜一郎(教授)、徳永瑛子(助教)

【技術補佐員4名】石橋俊作(大学院生)、鎌下莉緒(大学院生)、鴨川拳(大学院生)、川中瑞帆(大学院生)

【事務補佐員1名】加世田怜(学部生)

### (1)第1回連携協議会

日 時: 令和元年7月10日(火) 15:00 ~ 16:30

場 所: 長崎大学医学部保健学科2階院生室2

参加総数: 17名

議 事: ①今年度の事業の背景

②今後の計画

### (2)第2回連携協議会

日 時: 令和元年9月18日(水) 15:00 ~ 16:30

場 所: 長崎大学医学部保健学科5階第1作業療法実習室

参加総数: 22名

議 事: ①事業の進捗状況

②今後の計画

### (3)第3回連携協議会

日 時: 令和元年11月18日(月) 13:30 ~ 15:00

場 所: 長崎大学医学部保健学科2階院生室2

参加総数: 21名

議 事: ①事業の進捗状況

②今後の計画

### (4)第4回連携協議会(予定)

日 時: 令和2年1月31日(金) 13:30 ~ 15:00

場 所: 長崎大学医学部保健学科5階第1作業療法実習室

参加総数: 22名

議 事: ①令和元年度事業の総括

②今後の計画

【会議風景写真】





# 總 括





## 令和元年度事業総括

長崎大学医学部保健学科  
(本事業プロジェクトリーダー)  
田中 悟郎

文部科学省は、平成26年の障害者権利条約の批准や平成28年の障害者差別解消法の施行等も踏まえ、学校卒業後の障害者が社会で自立して生きるために必要となる力を生涯にわたり維持・開発・伸長し、共生社会の実現に向けた事業を推進する方針を平成30年に示しました。

長崎大学医学部保健学科は、本事業に「障害者の生涯学習活動への地域包括的支援」をテーマに応募し平成30年6月に採択されました。本学の事業は、発達障害者と精神障害者を対象とした「学校から社会への移行期における学習プログラム(移行プログラム)」と「生涯の各ライフステージにおける学習プログラム(生涯プログラム)」から構成され、様々な苦労を抱えながらも、仲間とともに、主体的な学びを通じて、夢や希望を持ち、自分らしく生活することができるよう、当事者の皆様を支援することを目的に実施しております。また、プログラムを実施する際は、参加者同士の協働、スタッフや関係者との対話、先輩当事者との交流などを通じ、自己の考えをしなやかに広げ深める「主体的・対話的な学び」を実現できるように努めています。令和元年度も昨年度と同様に、当初の計画通り事業を遂行することができました。これもひとえに多くの関係機関・団体の皆様からのあたたかいご支援とご指導の賜物と心から御礼申し上げます。

さて、ピアソポーターの養成は、精神障害リハビリテーションの重要な課題です。類似の体験をした人々が、その体験及び体験に付随する様々な感情を、「僕も同じ」「私と似てるよ」とわかつあうことで「一人ではなかった」「みんなも同じなんだ」「同じ仲間なんだ」「自分の体験が人の役に立つんだ」と安心感、自己肯定感、そして生きる希望を獲得できるような場を創造することが求められています。精神障害領域以外でも、例えば、がん患者やその他の身体障害のピアソポーター活動なども盛んに行われています。北米においては、2000年代頃から精神疾患のある人々が精神保健福祉サービスシステムの一員(「認定ピアスペシャリスト」)として正規雇用形態にて働くようになっています。また、近年ピアソポーターが行うサービスの効果に関する学術報告も増えています。さらに、公共サービスのあり方の一つとして、「コ・プロダクション(共同創造)」という考え方方が広まりつつあります。「コ・プロダクション」とは、当事者、家族、専門職などが対等な協力関係のもとで公共サービスの立案・提供を実施しようとする新たなアプローチです。

本事業では、発達障害者及び精神障害者のピアソポーター養成にも貢献できるような学習プログラムを当事者の皆様と協働で開発し、その有効性について評価研究を行うものです。今後も引き続き、ピアソポーターの養成を推進するための体制整備と当事者の皆様が地域の一員として安心して自分らしい暮らしをすること(リカバリー)ができるような社会の構築に寄与することを目指していきます。

皆様のご理解とご支援を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

